

## 平成22年4月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年12月10日

上場会社名 サトウ食品工業(株) 登記社名 佐藤食品工業(株)

上場取引所 東

コード番号 2923 URL <http://www.satosyokuhin.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐藤 功

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長

(氏名) 笠原 康司

TEL 025-275-1100

四半期報告書提出予定日 平成21年12月15日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年4月期第2四半期の業績(平成21年5月1日～平成21年10月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年4月期第2四半期	9,434	△1.5	△383	—	△347	—	△224	—
21年4月期第2四半期	9,576	—	△377	—	△267	—	△180	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年4月期第2四半期	△46.74	—
21年4月期第2四半期	△37.20	—

## (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年4月期第2四半期	24,326		8,405		34.6		1,749.50	
21年4月期	22,606		8,662		38.3		1,803.04	

(参考) 自己資本 22年4月期第2四半期 8,405百万円 21年4月期 8,662百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年4月期	—	0.00	—	12.00	12.00
22年4月期	—	0.00	—	—	—
22年4月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年4月期の業績予想(平成21年5月1日～平成22年4月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,600	3.0	800	△17.2	750	△37.4	400	△39.4	83.25

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年4月期第2四半期 5,075,500株 21年4月期 5,075,500株

② 期末自己株式数 22年4月期第2四半期 270,899株 21年4月期 270,899株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 22年4月期第2四半期 4,804,601株 21年4月期第2四半期 4,853,623株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ・ 定性的情報・財務諸表等

## 1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、経済対策効果もあり一部には底打ちの兆しは見られるものの、依然として企業収益の低迷、設備投資の抑制、雇用環境の悪化等先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、所得の伸び悩みや雇用情勢の悪化などによる生活防衛意識の高まりから消費者の低価格志向が強まるとともに、加工食品に対する「食の安全・安心」に対する厳しさが一層増しており、今まで以上に品質管理の強化や環境問題への対応等、企業の社会的責任がますます求められる状況になっております。

このような状況の中で、当社はコンプライアンス及び食の安全・安心の更なる確保に向け、昨年の北海道米飯工場におけるISO22000:2005の認証取得に続き、無菌化包装米飯の主力工場である東港工場においても、平成21年9月に同規格の認証を取得いたしました。また、地球温暖化対策の取り組みの一環として、東港工場に太陽光発電設備導入に向け着工するとともに、販売費及び製造経費の削減や生産並びに業務の効率化に取り組んでまいりました。

部門別の包装餅部門につきましては、適正価格での健全な販売及び販売促進費の効果的な執行に取り組むことで収益改善を図るべく活動してまいりました。また、昨年10月からの包装餅製品の価格改定の影響が一巡したこともあり、当第2四半期会計期間の売上高は0.2%増(前年同四半期比)となったものの、昨年の小麦粉を原料としたカップめんやパン等の値上げの影響による包装餅の売上高が伸長した反動等の影響により、当第2四半期累計期間における包装餅の売上高は32億84百万円(前年同期比0.6%減)となりました。

包装米飯部門につきましては、市場での低価格化競争が一段と激しさを増す中、お米本来の「美味しさ」の追求に重点をおいた当社独自のガス直火炊き製法や、パッケージに使用米の産地銘柄米表示を入れることで消費者の信頼を得るとともに、包装米飯の健全な市場育成を目指し他社とは一線を隔した販売活動に取り組んでまいりました。また、「サトウのごはん」を各家庭の戸棚に常備することで、日常生活の中でご飯が足りなくなった時に誰もが思っている「あると、安心。」をキャッチコピーとしたテレビCMを、8月～9月に主婦層をターゲットとして実施したこともあり、当第2四半期会計期間の売上高は1.3%増(前年同四半期比)となりましたが、第1四半期会計期間の影響もあり、当第2四半期累計期間における包装米飯の売上高は61億43百万円(前年同期比1.9%減)となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は94億34百万円(前年同期比1.5%減)となりました。

利益面につきましては、テレビCMの一部前倒し実施により広告宣伝費は増加しておりますが、販売促進費の減少により販売費及び一般管理費は減少したものの、売上高の減少による売上総利益の減少や受取手数料の減少もあり、営業損失は3億83百万円(前年同期3億77百万円)、経常損失は3億47百万円(同2億67百万円)、四半期純損失は2億24百万円(同1億80百万円)となりました。

なお、当社は主力製品である包装餅が季節商品(特に鏡餅)であり、その販売が年末に集中するため、第3四半期会計期間の売上高及び利益が他の四半期会計期間に比べ高くなる傾向があります。

## 2. 財政状態に関する定性的情報

## (流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は132億62百万円となり、前事業年度末に比較し21億17百万円増加いたしました。

これは、仕入調整による原材料及び貯蔵品が減少(前事業年度末比12億35百万円減)いたしました。また、受取手形及び売掛金の増加(同12億69百万円増)並びに商品及び製品の増加(同20億2百万円増)が主な要因となっております。

## (固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は110億64百万円となり、前事業年度末に比較し3億97百万円減少いたしました。

これは、減価償却の実施による有形固定資産の減少(前事業年度末比4億3百万円減)が主な要因となっております。

## (流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は124億24百万円となり、前事業年度末に比較し22億98百万円増加いたしました。

これは、法人税等の納税により未払法人税等は減少(前事業年度末比4億92百万円減)しておりますが、支払手形及び買掛金の増加(同8億11百万円増)並びに運転資金としての短期借入金の増加(同19

億円増)が主な要因となっております。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は34億96百万円となり、前事業年度末に比較し3億21百万円減少いたしました。

これは、長期借入金の減少(前事業年度末比3億37百万円減)が主な要因となっております。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は84億5百万円となり、前事業年度末に比較し2億57百万円減少いたしました。

これは、配当金の支払及び四半期純損失(累計期間)による利益剰余金の減少(前事業年度末比2億82百万円減)が主な要因となっております。

(3) キャッシュ・フローの状況

営業活動の結果、当第2四半期累計期間に支出した資金は11億90百万円(前年同期比20億9百万円増)となりました。これは、仕入債務の増加により資金の支出が減少したものの、税引前四半期純利益の減少、売上債権の増加、たな卸資産の増加及び未払消費税等の減少が主なものとなっております。

投資活動の結果、当第2四半期累計期間に支出した資金は1億17百万円(前年同期比7億96百万円減)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出の減少が主なものとなっております。なお、前年同四半期累計期間の有形固定資産の取得による支出は、東港工場の包装米飯生産設備移設及び改修にともなうものであります。

財務活動の結果、当第2四半期累計期間に得られた資金は13億51百万円(前年同期比12億7百万円増)となりました。これは、長期借入れによる収入が減少したものの、運転資金としての短期借入金の増加及び前年実施した自己株式の取得による支出の減少が主なものとなっております。なお、前年同四半期累計期間の長期借入れによる収入は、東港工場設備資金として実行したものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期累計期間末の残高は、前年同期と比較し13百万円増加し84百万円となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、所得の伸び悩みや雇用情勢の悪化にともなう個人消費の不透明感等、依然として厳しい状況で推移するものと予想されますが、現状は概ね想定範囲以内で推移しておりますので、平成21年6月15日公表の通期業績予想のとおりに推移するものと見込んでおります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期財務諸表】  
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年10月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,741,461	1,695,781
受取手形及び売掛金	5,280,491	4,011,335
商品及び製品	3,511,359	1,508,837
仕掛品	377,674	424,027
原材料及び貯蔵品	1,991,821	3,227,583
その他	364,620	281,218
貸倒引当金	△4,900	△3,800
流動資産合計	13,262,528	11,144,985
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,408,950	2,467,043
機械及び装置(純額)	3,247,082	3,614,127
土地	1,802,955	1,802,955
その他(純額)	329,534	307,801
有形固定資産合計	7,788,522	8,191,927
無形固定資産		
	39,791	27,601
投資その他の資産		
投資不動産(純額)	2,210,598	2,217,993
その他	1,050,415	1,048,785
貸倒引当金	△25,090	△24,890
投資その他の資産合計	3,235,924	3,241,889
固定資産合計	11,064,238	11,461,419
資産合計	24,326,766	22,606,404
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,046,099	1,234,825
短期借入金	7,550,000	5,650,000
未払法人税等	8,000	500,000
賞与引当金	357,988	255,602
引当金	—	10,960
その他	2,462,883	2,474,729
流動負債合計	12,424,972	10,126,117
固定負債		
長期借入金	2,718,520	3,055,620
退職給付引当金	515,616	495,247
引当金	86,187	101,624
その他	175,804	164,893
固定負債合計	3,496,128	3,817,386
負債合計	15,921,100	13,943,503

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年10月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金	506,000	506,000
利益剰余金	7,516,468	7,798,683
自己株式	△305,467	△305,467
株主資本合計	8,260,775	8,542,990
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	144,890	119,910
評価・換算差額等合計	144,890	119,910
純資産合計	8,405,665	8,662,901
負債純資産合計	24,326,766	22,606,404

(2) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成20年5月1日 至平成20年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成21年5月1日 至平成21年10月31日)
売上高	9,576,264	9,434,381
売上原価	6,703,087	6,652,066
売上総利益	2,873,176	2,782,314
販売費及び一般管理費	3,251,159	3,165,746
営業損失(△)	△377,982	△383,431
営業外収益		
受取利息	4,051	2,475
受取配当金	3,800	3,901
受取賃貸料	86,013	86,265
受取手数料	143,151	37,696
その他	36,350	48,961
営業外収益合計	273,367	179,301
営業外費用		
支払利息	113,262	78,973
賃貸費用	48,173	48,234
その他	1,017	16,039
営業外費用合計	162,453	143,248
経常損失(△)	△267,068	△347,378
特別利益		
固定資産売却益	430	—
特別利益合計	430	—
特別損失		
固定資産売却損	64	—
固定資産除却損	4,069	1,381
投資有価証券評価損	7,012	1,492
特別損失合計	11,147	2,874
税引前四半期純損失(△)	△277,785	△350,253
法人税、住民税及び事業税	2,271	2,695
法人税等調整額	△99,524	△128,389
法人税等合計	△97,253	△125,693
四半期純損失(△)	△180,531	△224,559

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△277,785	△350,253
減価償却費	598,827	546,338
貸倒引当金の増減額(△は減少)	800	1,300
賞与引当金の増減額(△は減少)	99,533	102,386
受取利息及び受取配当金	△7,852	△6,377
支払利息	113,262	78,973
売上債権の増減額(△は増加)	△505,368	△1,269,155
たな卸資産の増減額(△は増加)	307,557	△720,405
仕入債務の増減額(△は減少)	427,940	811,274
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	△14,459
未払消費税等の増減額(△は減少)	△57,412	△243,425
その他	123,163	358,469
小計	822,667	△705,332
法人税等の支払額	△3,597	△485,959
法人税等の還付額	—	579
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>819,069</b>	<b>△1,190,713</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△917,384	△122,586
投資有価証券の取得による支出	△4,320	△322
その他	7,263	4,995
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△914,441</b>	<b>△117,913</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	450,000	1,900,000
長期借入れによる収入	500,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△494,440	△497,230
利息の支払額	△117,793	△77,560
自己株式の取得による支出	△135,520	—
リース債務の返済による支出	—	△16,110
配当金の支払額	△58,741	△57,639
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>143,504</b>	<b>1,351,459</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	48,132	42,833
現金及び現金同等物の期首残高	22,107	41,304
現金及び現金同等物の四半期末残高	70,240	84,137

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 6. その他の情報

## (1) 生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績を事業の部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門	当第2四半期累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年10月31日)	前年同期比(%)
包装餅(千円)	6,835,118	92.5
包装米飯(千円)	6,019,461	94.2
その他(千円)	1,484	50.0
合計(千円)	12,856,064	93.3

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績を事業の部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門	当第2四半期累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年10月31日)	前年同期比(%)
包装餅(千円)	3,284,376	99.4
包装米飯(千円)	6,143,583	98.1
その他(千円)	6,420	78.4
合計(千円)	9,434,381	98.5

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合注実績

相手先	前第2四半期累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年10月31日)		当第2四半期累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年10月31日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
三菱商事(株)	2,574,539	26.9	2,540,584	26.9
加藤産業(株)	2,614,082	27.3	2,471,523	26.2
伊藤忠商事(株)	1,796,330	18.8	1,858,425	19.7
三井物産(株)	1,186,463	12.4	1,075,631	11.4

- 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 当社の包装餅は、季節商品(特に鏡餅)でありその販売が年末に集中するため、第3四半期会計期間の売上高が他の四半期会計期間に比べ高くなる傾向があります。

## (3) その他

## 訴訟

当社が製造・販売する切込み入り切り餅について、越後製菓株式会社から当社に対し、同社所有の特許権を侵害するものとし、平成21年3月11日付で東京地方裁判所において当該製品の製造・販売等の差止め請求及び損害賠償を求める訴訟の提起を受けましたが、当社の当該製品は同社の特許権を侵害するものではないと考えており、現在、裁判で当社の正当性を主張し、係争中でありませ